

自分は何者かに生かされて今ここに在る、“しなやかな諦観”を持つて生きよう——

「生き延びた者に生命力をみなぎらせるのは死者への鎮魂。3月11日を国民鎮魂の日に!」

「今回の震災を機に、日本人が“国家観念”を再生させねばなりません」と語るのは、拓殖大学学長の渡辺利夫氏。震災後の政権中枢部の対応や昨年の尖閣諸島問題などを見ていると、政治家にも国民にも「国家観念」が欠けているという渡辺氏。誰かに助けを求めるばかりではなく、自らが自らを助ける「自助の精神が必要」と訴える——。

拓殖大学学長
渡辺 利夫 Watanabe Toshio

後藤新平の ビジネスマンシップ

前回は帝都復興院の際に後藤新平が復興の4原則を掲げて奔走したという話でした。これが上手くいったのも「私ではなく「公」の意識があつたから、ということでしたね。

渡辺 はい。後藤新平は自分の力だけで帝都復興が出来るなんて初めから思っていませんでした。台湾総督府民生長官や満鉄總裁として赴任中に自分が育てた俊秀や敬愛する外国人の手も大いに借りました。

後藤は東京市政調査会の創設者でもあったわけですが、これはニューヨークの市政調査会をモデルにして創られたものです。そこで後藤はニューヨーク市政調査会のチャールズ・ビードというアメリカ人にコンタクトして、「東京に来て、僕にいろいろ指導してくれないか」と依頼したのです。

ビードからは三つの助言が来ました。一つは「新街路を決

定せよ」。二つ目が「街路決定前の建築を禁止せよ」。三つ目が「鉄道の駅を統一せよ」。

その三つの指示に基づいて、復興計画を練ったというのです。

渡辺 ええ。ビードからこういう助言を仰いで、後藤は我が意を得たり、と感じたそうです。そして、彼は次の三つの方針を直ちに打ち出しました。「焼土は全部政府が買い上げる」、「財源は公債発行による」、「買い上げた土地は整理した後、公平に売却、または貸し付ける」というものでした。これは、彼のビジネスマンシップをはつきりと表しています。

—— ビジネスマニッシュ、この辺を具体的に説明してもらえますか。

渡辺 1923年(大正12年)

の関東大震災の時には東京は瓦礫だらけで、撤去にも相当な時間を費やしました。瓦礫とともに焼土となつた土地を買い上げ、瓦礫を全部片付けた後に、広い街路や公園を造設し、都市



わたなべ・としお

1939年山梨県生まれ。70年慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学教授、東京工業大学教授などを歴任。拓殖大学国際開発学部学部長、大学院国際協力学研究科委員長などを経て、2005年より学長をつとめる。

が。
済

火が燃え移らないようには広い公園が不可欠だは考えました。上野公園、芝公園、隅田公園、日枝神社と、今に残園を次々と造営していきます。

橋が崩れ落ちたため逃した人たちが数多くいました。藤は橋の重要性にも目をした。現在残っている橋も、永代橋、両国橋、藏前橋、言問橋、駒形橋……あります。

それだけ壮大な都市計画つたということです、私権の制限なども絡るため土地の買い上げにも起きるし、政治的には子党だった政友会の反対がつた、と聞いています

を絶する反対があつたようです。政友会の伊東巳代治が銀座に厖大な土地を持つていたんですが、後藤新平が「この土地を手放せ」と言うので、かなり食つて掛かつたらしい。既得権益者の反対が根強かつたのは当然でしょうね。

それで40億円の復興予算を立てていた計画が結局、7億円にまで削減させられたという次第です。これに一時、後藤新平は愕然とした表情でしたが、実は後藤は初めから40億円なんて取れるはずがないと思っていたようなんです。彼は7億円と言われても「じゃあ、この額で出来る限りの範囲のことを全てやろう」と決心し、計画を実行に移していくんですね。

それまでの東京というのは広い公園や広い土地というのがほとんどなかつた。だから、江戸を東京にえたのが後藤新平という男だと言つていいように思います。

「江戸」から「東京」に 町を変えた復興計画

計画を練り上げていけば、土地は以前よりも高く売却できるし、貸し付けもできる。だから、土地買い上げのための財政支出は、結局はプラスになつて戻ってくるというビジネス感覚ですね。

この辺の発想がいまの政治家には全くないんです。

—— そこから出来たのが、昭和通りや靖国通りなどの大通りの建設でしたね。

が地震そのもので亡くなつたのではなく、火事による焼死でした。そこで新しい都市計画では、幅の広い道路が重要だと考えたのです。

また、火が燃え移らないようにするには広い公園が不可欠だと後藤は考えました。上野公園、日比谷公園、芝公園、隅田公園、錦糸公園、日枝神社と、今に残る公園を次々と造営していきました。

を絶する反対があつたようです
ね。政友会の伊東巳代治が銀座
に龐大な土地を持つていたんで
すが、後藤新平が「この土地を
手放せ」と言うので、かなり
食つて掛かつたらしい。既得権
益者の反対が根強かつたのは當
然でしょうね。

た。後藤は橋の重要性にも目をつけました。現在残っている橋だけでも、永代橋、両国橋、藏前橋、清洲橋、言問橋、駒形橋……と沢山あります。

—— それだけ壮大な都市計画をつくつたということですね。当然、私権の制限なども絡んでくるため土地の買い上げには反対も起きたし、政治的には当時の与党だった政友会の反対も大きかった、と聞いています

——それだけ壮大な都市計画をつくったということですね。当然、私権の制限なども絡んでくるため土地の買い上げには反対も起きるし、政治的には当時の与党だった政友会の反対も大きかった、と聞いています

それまでの東京というのは広い公園や広い土地というのほんとんどなかつた。だから、江戸を東京に変えたのが後藤新平という男だと言つていいように思ひます。

日米同盟の信頼関係を より一層強めるべき！

—— 今も昔も足を引つ張る人間はどこにでもいますが、改革ができた後藤新平と今の政治家との違いは何だと思いますか。

渡辺 後藤新平を突き動かしたのは、やはり、国を救わねばならない、国民を救わねばならない、という使命感だと思います。今の政治家にはそうした使命感が微塵も感じられません。東日本大震災後の被災者救済、福島第一原発などへの対処が拙い理由は、結局は使命感の薄さですよ。

もう一つ、例をあげれば、昨年の尖閣諸島で起きた中国漁船衝突事故です。日本は法治国家であるにもかかわらず、船長を初めとする14人の船員と船を返してしまいました。

しかし、普通の法治国家であるならば、どういう行為が犯罪であり、その犯罪はどの法律によって裁かれなければならない



か、ということが全て決まっているんです。法治主義ということは、この罪形法定主義のことです。何もせずに船員を返してしまったということは、日本という国は国家主権を守るために法治主義を完全に放棄したということと同じなんですよ。

これは中国に大変な「学習効果」を与えてしましたよね。日本という国は主権を侵されてできない国なんだな、という学習です。あれ以降、実際に日本の領海は中国によって侵犯され続けています。中国だけではあります。竹島には韓国のヘリコプター基地がつくられ、国後

や択捉などの北方領土にはロシアの首脳が当たり前のようにならんですね。しかし、そこで安心するのはまだ早い。自国の領土を自国の軍事力で守ろうとしない国を、アメリカ兵が来て自らの血を流して守るとは常識的には考えられないことです。

—— 現在、中国は南シナ海の領有権と海洋権益を巡って争っていますね。政治家がこうした現状を知らないはずはないんですが。

渡辺 ええ、彼らは世界で戦争が起こっている現実を見たくないのでしょうか。尖閣諸島はもとより宮古島、石垣島、西表島、そして最西端の与那国島までの間に自衛隊の基地は全くありません。宮古島にレーダーが1本あるだけだそうです。

普通は国防のフロントラインにあたる場所は一番強く固めるものです。ところが、我が国は

親日的で日米関係の大切さを誰よりも強く説いてきたのが、アーミテージ・元国務副長官です。彼の言うのには、アメリカはいろいろ要求を出しているよう

に見えるけど、要点はただ一つ。日本が集団的自衛権を行使すれば日米関係は上手くいく、

困った時に、最後にすがりつくなのはアメリカです。クリントン国務長官に「尖閣諸島は日米

同盟の対象地域である」と言わせて、ホツと一息といったところなんですね。しかし、そこで安心するのはまだ早い。自国の領土を自国の軍事力で守ろうとしない国を、アメリカ兵が来て自らの血を流して守るとは常識的には考えられないことです。

—— 本当に助けの手を求めるのが普通の同盟関係ですよね。

渡辺 日本は日米同盟の信頼関係を強めるためには、集団的自衛権の行使を認めるしか他にオプションは無いと思うのですが、そんな動きは自民党にもありません。

そこが一番手薄い状態におかれている。自國の島に上陸され既成事実をつくられたら、日本はそれを追っ払うことが出来ない国なんですよ。

困った時に、最後にすがりつくなのはアメリカです。クリントン国務長官に「尖閣諸島は日米

いるんだと、よほど腹にすえか
ねてアーミテージはそう言つて

いますが、わたしもそう思いま
す。

——これは当然のことです

変わつてほしいですね。

渡辺 ええ。最近よく思うのが、『しなやかな諦観』を持つことの大しさですね。

——しなやかな諦観とは？

渡辺 今後、20～30年以内に
東海、東南海、南海で連動地震

自分たちで守るという決意を持つことですね。

人は生かされている
存在!

そのために堅固で精細な防災対策をつくることは必要ですが、一方でそんな巨大な地震が起こつてしまつたら、どんなに

分にこらすと同時に、何か不可避免の厄事が必ずや起ころうといふ。しなやかな諦観を持つていなければ、私どもはこの日本列島の上で人生を送ることはできないと思うんです。

仮に極端な話、日本の民族の半分が消滅したとしても、残つた半分はこういう悲劇にあえがた生命力をみなぎらせて、日本民族の血を後世に引き継いでいかなければなりません。

そういう国難ともいえる悲劇

堅固な備えを施したところで、甚大な悲劇が各所で起ることは避けられっこありません。今後の悲劇に対する対策を十分にこらすと同時に、何か不可避の厄事が必ずや起こるというしなやかな諦観を持つていなければ、私どもはこの日本列島の上で人生を送ることはできない。

げであつて、つまりは自分を超える何者かに“生かされている”のだと思わなければならない。――なるほど。生かされているという感覚ですね。

渡辺 生き延びた人間は死せる者への深い、深い鎮魂が必要だと思います。3月1日を国民鎮魂の日に制定したらしいので

渡辺 生き延びた人間は死せる者への深い、深い鎮魂が必要だと思います。3月1日を国民鎮魂の日に制定したらしいのです。はないか、と思うのです。

自分たちが生かされて、今ここに在ることの意味を真剣に考える日があつていいと思います。